

郡上八幡における水辺の近代化に関する考察

岐阜大学工学部 正会員 田中尚人

1. はじめに

本研究の対象地「郡上八幡」は、平成16年3月の合併により現在郡上市となった旧郡上郡八幡町(図-1参照)である。長良川の上流部、八幡城の城下町であった市街地中心部を吉田川、小駄良川などの清流が流れる、人口18,000人程度の山間の集落である。

本研究は、地域の近代化に寄与した産業・交通・土木に関する近代化遺産の郡上八幡における特徴を整理し、水辺のまちとしての風土の基盤形成について考察したものである。

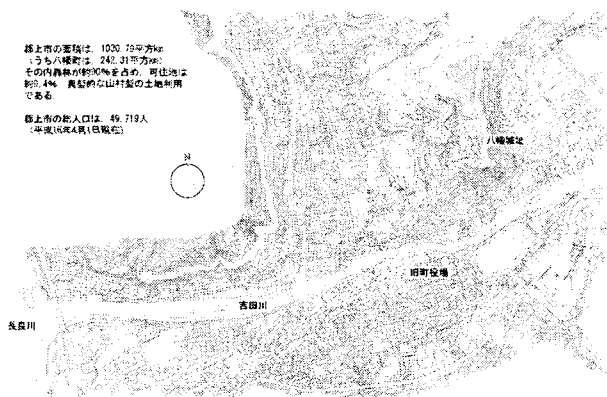


図-1 調査対象図：郡上八幡

2. 郡上八幡における近代化の概要

(1) 水辺の近代化遺産調査の概要

古地図、絵図、古写真、文献^{1)~4)}、新聞などの歴史的資料をもとに、明治期から戦前までの遺産を、現存する施設、遺構を問わず資料調査し、対象地の近代化遺産を把握した。主な分類を以下に示す。

- ①水利施設 … 利水や発電のための堰堤やダム、放水路、取水・分流堰、排水溝、建築、調整池等
- ②交通施設 … 橋梁、隧道、擁壁等
- ③産業・生活施設 … 氷、酒、藍染、漁法等も含め

(2) 近代化過程と水辺のインフラストラクチャー

インフラストラクチャー整備に重点を置き、上記の資料を整理して表-1の年表を作成した。以下、水辺に関する代表的な施設や事項について整理した。

①水力発電

1899年(明治32)八幡水力電気会社が、岐阜県下で初めての送電を開始した。1904年(明治37)には、電話交換事業も開始され、写真-1に示したように、昭和初期には市街地中心部には電柱も見られ、近代化が進んでいたことが分かる。

表-1 郡上八幡における社会基盤整備年表

		全国	郡上八幡	水辺(郡上八幡)
1875年	明治8		初の町村合併(郡上11町88箇村)	
1879年	12		郡上郡役所設置(八幡町)	
1887年	20	私設鉄道条例公布	私設八幡消防団誕生	
1889年	22		八幡町誕生	
1890年	23	水道条例公布、軌道条例公布、鉄道庁官制公布		
1891年	24	12月 電気営業取締規則制定		濃尾大地震により被害
1892年	25	鉄道軌道法公布		八幡町大洪水被害
1893年	26		1月 八幡郵便局に電信事務開始	吉田川・小駄良川洪水
1896年	29	4月 河川法制定		
1897年	30	5月 電気事業取締規則公布(6月施行)	堀越峠道路改修	
		6月 電気事業取締規則の改正		
		砂防法公布、森林法公布		
1899年	32		津保街道改修	八幡水力電気会社設立(県下初)
1910年	43		6月 箱坂隧道完成(国道)、八幡橋架替	
1911年	44	3月 電気事業法公布(10月施行)	町内に電話施設開設	
1914年	大正3	7月 第一次世界大戦勃発	八幡〜美濃間に乗合自動車開通	鬼谷用水池工事
1916年	5			4月 北町用水路改修
1917年	7		愛宕用水完成	
1919年	8	4月 都市計画法、市街地建築物法公布	大正大火(7.16)	水害
1920年	9		八幡町公設消防組	
1922年	11		八幡橋架替	
1923年	12	9月 関東大震災(9.1)	5月 栄町道路新設、新橋架替	中坪・殿町用水路改修
1924年	13		大乗寺鉄橋完成	
1926年	15		郡上郡役所廃止	
1929年	昭和4	世界恐慌	越美南線八幡町まで開通	
1933年	8		郡上八幡城再建、新橋永久橋完成	
1934年	9		口明方初納に発電所創設	室戸台風により被害
1936年	11		旧八幡役場完成	3月 島谷用水路堰堤
1938年	13		宮ヶ瀬永久橋完成	
1940年	15			3月 島谷用水路工事
1941年	16		3月 八幡橋架替、諸道路舗装	初音水路工事
1945年	20	8月 第二次世界大戦終結		
1954年	29		新八幡町誕生、連合消防団誕生	



写真-1 本町南角（昭和初期）



図-2 吉田初三郎画八幡町鳥瞰図（1935年）

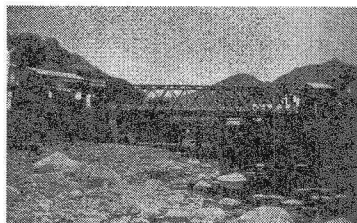


写真-2 大正大火 写真-3 吉田川風景（昭和初期）

(1) 水辺の近代化遺産群

治水のための護岸改修や河川改修の結果、水辺の近代化に寄与したインフラストラクチャーとして、以下が挙げられる。

・乙姫川流路工 ・吉田川左岸堤防

(2) 水辺に立地した産業遺産群

産業の性質上、水辺に立地することとなったインフラストラクチャーとして、以下が挙げられる。

・郡上紡績小野工場

(3) 生活基盤としての遺産群

郡上八幡の人々の生活を支えたインフラストラクチャーとして、以下のようなものが挙げられる。

・島谷用水関連施設 ・新橋 ・宮ヶ瀬橋

② 大火

木造建築が並ぶ郡上八幡では、近世以来多くの大火が発生してきた。特に1919年（大正8）北町を中心とした大火は「大正大火（写真-2）」と呼ばれ、全焼家屋570余戸、被災者2,188名、官公庁は全壊であった（「新愛知」1919.7.18付による）。

③ 鉄道

1934年（昭和9）越美南線が北濃まで開通した。これ以前にも軽便鉄道の計画が存在したが頓挫していた。図-2は、1935年（昭和10）に吉田初三郎が描いた郡上八幡の姿であるが、鉄道の他に河川に架かる多くの橋や発電所が描かれており、水辺のインフラストラクチャーの存在価値が読み取れる。

④ 橋梁

市街地中心部に吉田川をはじめ多くの川や水路が流れる郡上八幡では、宮ヶ瀬、八幡橋、新橋などが架かる。近世より木橋が主であったが、宮ヶ瀬橋は1938年（昭和13）ようやく永久橋となった（写真-3）。

3. インフラストラクチャーに見る水辺の近代化に関する分析

資料調査をもとに、現存する近代化遺産を調査するとともに、その評価を行った。

水辺の近代化を経験した郡上八幡では、直接水辺の近代化に寄与した遺産群、産業遺産として水辺に立地したもの、人々の生活を支えることによって近代化に寄与した遺産群、に分けて分析を行った。

4. まとめ

本研究では、近代化遺産となったインフラストラクチャーを通して、水辺のまち郡上八幡の近代化について考察を行った。

水辺の生活が豊かであった郡上八幡においては、近代化の時期においても同様の事例が検証でき、特徴ある近代化のプロセスを辿ったと言える。

謝辞：本研究の資料収集には、郡上市教育委員会、郡上市八幡地域振興事務所基盤整備課の皆様たいへん御世話になりました。また、資料整理には岐阜大学大学院中嶋伸恵さんにお手伝い頂きました。記して謝意を表します。

参考文献：

- 1) 郡上八幡町，郡上郡八幡町史 上巻，1960.8
- 2) 郡上八幡町，郡上郡八幡町史 下巻，1961.1
- 3) 岐阜県教育委員会，岐阜県近代化遺産（建造物等）総合調査報告書，1996.3
- 4) 郡上八幡町，郡上郡八幡町史 史料編第六巻（近現代編），2004.2